

朗読指導者 養成講座

2024年
4月開講

～朗読を深める～

Rodoku

講師陣

(講義日程順 敬称略)



山崎広子



野田尚史



安田 登



島内景二



美細津 由加里



宮本隆治



加賀美幸子

作品を理解し、聞き手の心に届く朗読を深めることを目的としています。
朗読者だけでなく、日々コミュニケーションを必要とされる職業の方、
また、日常生活における円滑な人間関係を目指す方にも役立ちます。
ご一緒に、朗読力アップを目指して勉強しませんか。



NPO日本朗読文化協会

講師プロフィール

(講義日程順 敬称略)



山崎 広子

やまさき ひろこ／国立音楽大学卒業後、音声生理学と心理学を学び、音響心理学、知覚認知心理学をベースに音声と脳の関係の研究。3万例以上の声の分析を経て、脳の発声回路から発声障害を改善する方法論を確立。歌手・政治家・ビジネスパーソンの声のコンサルティング、またヴォイストレーナーの育成も行う。著書は「8割の人は自分の声が嫌い」(角川新書)、「声のサイエンス」(NHK出版新書)他。ラジオや講演で声の素晴らしさを伝え続けている。一般社団法人「声・脳・教育研究所」代表。



野田 尚史

のだ ひさし／現職：日本大学文理学部教授 生まれ：1956年、石川県金沢市 学歴：大阪外国語大学イスパニア語学科卒業、同大学大学院修士課程日本語学専攻修了、博士(言語学) 職歴：筑波大学講師、大阪府立大学助教授・教授、国立国語研究所教授 著書：『日本語を分析するレッスン』(共著、大修館書店、2017年)、『なぜ伝わらない、その日本語』(岩波書店、2005年)、『日本語を話すトレーニング』(共著、ひつじ書房、2004年)など。



安田 登

やすだ のぼる／能楽師(ワキ方下掛宝生流)。東京を中心に能の公演に出演し、海外公演にも参加。新作能の創作もする。また神話『イナナノ冥界下り』でのヨーロッパ公演や、金沢21世紀美術館での『天守物語(泉鏡花)』、鳥根の神楽を取り入れた『芸能開闢古事記』、能と人形による『銀河鉄道之夜』、京都永観堂での『法然上人と室津の遊女』など、能・音楽・朗読を融合させた舞台を数多く創作、演出、出演する。Eテレ100分de名著『平家物語』・『太平記』講師・朗読。著書多数。



島内 景二

しまうち けいじ／1955年生まれ。国文学者。東京大学文学部と大学院で、『源氏物語』を秋山虔氏に学び、その批評精神の継承を志す。博士(文学)。電気通信大学名誉教授。古典文学研究の成果を活かして、新しい文芸批評と文明批評を展開している。2020年度から、NHKラジオ第二「古典講読」で講師を担当。古典の新しい現代語訳を、花鳥社の「新訳」シリーズとして刊行。これまでに、『更級日記』『紫式部日記』など。『源氏物語』の抄訳(部分訳)を、「湖月訳」として刊行中。



美細津 由加里

みさいづ ゆかり／プロデューサー。東京大学教養学部卒。04年NHK入局。NHKスペシャル、BSスペシャルなどを中心に、主に報道や国際情勢に関する番組を制作する。新たなデジタル調査報道番組BS『デジタル・アイ』を開発。独ワールドメディアフェスティバル報道部門、ギャラクシー賞など受賞。主な作品に『調査報道新世紀 北朝鮮』、『ひとりぼっちのスパイイルカ』、『デジタル・ウクライナ』、『ウクライナ 消えた子どもたち』、『台湾 最前線の島守たち』、『分断の果て アメリカ中間選挙』など。



宮本 隆治

みやもと りゅうじ／昭和25年('50年)北九州市生まれ。慶應義塾大学卒業後、昭和48年('73年)NHK入局。「サンデースポーツタイム」「NHK歌謡コンサート」「NHKのど自慢」等を担当。1995年から6年連続「紅白歌合戦」総合司会。1988年大河ドラマ「武田信玄」アバン語り。1996年大河ドラマ「秀吉」語り。2007年エグゼクティブアナウンサーの時、定年退職。2009年「天皇陛下御在位二十年記念式典」及び「国民祭典」司会。2019年「天皇陛下御即位三十年奉祝感謝の集い」司会。



加賀 美幸子

かがみ さちこ／1963年NHK入局。在局中は、報道、教育、教養、音楽芸能番組等々幅広く担当し、女性初の理事待遇となる。現在も、ライフワークである古典の原文朗読を中心に講演、執筆など様々な活動を展開。NHK会長賞、ダイヤモンドレディー賞、前島(密)賞、徳川夢声市民賞など受賞。「NPO日本朗読文化協会」名誉会長、「千葉市男女共同参画センター」名誉館長、「放送人の会」理事、「NHK文化センター」講師、他。

doku

～朗読を深める～ 朗読指導者養成講座

2024年
4月開講

募集要項

主旨

この講座は朗読者に求められる幅広い人間性と朗読指導者としての高いレベルの知識及び指導法を体得することを目指して行うものであり、講座終了後、「修了証」を授与します。

朗読の喜びや力を如何に伝えていくか。また、聞く人の心に届く朗読とはどのようなものか。その力を朗読者のものとするためには、朗読者自身の豊かな人間性と広い意味での朗読のノウハウを身に着けることが必要とされます。それらを総合的に学び、朗読を深めるのがこの講座です。

朗読は人と人とのコミュニケーション力を付ける大切なスキルの一つです。朗読の基礎、表現法を学ぶことによって、話し方、声の出し方、発音、声の調子などあなた自身の表現も深まります。

朗読はもとより、学校での生徒に良く伝わる授業、また、ビジネスの場での説得力あるプレゼンテーションなどの力を上げる事が出来ます。また、言葉の専門である各講師の指導を体験することによって、指導法を学ぶこともできます。

NPO日本朗読文化協会はこの講座で培われた「朗読者」を通じて、広く社会貢献できることを目標としています。

講座内容

講座は1年間（月1回）を通して行われます。

I：「基礎力」 ①山崎広子／A 4月27日（土） B 5月25日（土）
②野田尚史／A 6月29日（土） B 7月27日（土）

1：音声学を基にし、朗読の元になる発声、朗読者自身が自分の声を知り、それを使いこなせるようにします。

2：言葉の基礎を基に、聞き手に伝えるには何が必要か、伝わる日本語を学びます。

II：「表現力」 ③安田登／A 8月24日（土） B 9月28日（土）
④島内景二／10月26日（土）

⑤美細津由加里／A 11月30日（土） B 12月21日（土）



⑥宮本隆治／2025年 A 1月25日（土） B 2月22日（土）

魅力的な表現とはどのようなものか。また、そのためにはどのような様にすれば良いか。演出、司会、ナレーション、及び舞台表現の立場からの指導を受けます。

まとめ：「朗読論」と発表

⑦加賀美幸子／2025年3月22日（土）

これまで学んできたことの総括と受講者の朗読発表

講座日程	2024年4月～2025年3月 原則月1回第4土曜日14時～16時 講義時間120分 ※講師の仕事の都合により、日程は変更する場合があります
募集対象	①朗読活動の指導者を目指す方 ②朗読活動の更なる進歩を目指す方 ③コミュニケーション技術の向上のために朗読を学びたい方 全ての講義に出席可能な方
受講料	協会員：80,000円 一般：100,000円 なお、支払い後の受講料返金には応じかねますのでご了承ください。 ※協会員としての申し込みは、在籍3か月以上の方に限ります ※分割支払いは、2回（申し込み時、及び9月）まで可とします
定員	20名（書類選考あり）
聴講生	各講座最多5名（ただし協会員限定、申し込み順） ※聴講の場合、講義に対する質問や相談はお受けできません。 ※参加費：1講座（A,B）6,000円（ただし2講座まで）
講座会場	東京都港区芝公園2-6-3 芝公園フロントタワー3階
募集日時	2024年2月1日(木)～3月8日(金)必着 3月末日までに受講の可否をお知らせします。
「修了証」の授与について	1) 講座最終日、全講座出席の受講者には「修了証」を授与します。 2) 止むを得ず欠席した講座は次年度にのみ再受講することができます。 但し、受講料：1講座（A,B）につき6,000円
申込方法	<p>①ホームページから申し込みをされる場合 入力フォームからお申し込み下さい。</p> <p>②FAX または郵送で申し込みをされる場合 7ページの募集要項の申込書に記載の上、下記住所に2024年3月8日（金）〈必着〉までに郵送、またはFAXして下さい。 FAXでのお申し込み：03-6435-8356 郵送でのお申し込み：〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2 NPO日本朗読文化協会 「朗読指導者養成講座」係宛</p>
お問合せ  NPO日本朗読文化協会	〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-6 第一白川ビル3階B-2 TEL：03-6435-8355 FAX：03-6435-8356 E-mail:npo-rodoku@rodoku.org http://www.rodoku.org/ 

講座日程

講座日／講師名

講義名／概要

1

A 4月27日(土)
山崎広子

声を知る～声と脳と身体の不思議～

まず声帯、共鳴、呼吸、脳の発声回路などの基礎知識をお話しします。
〈声帯原音から声へ／声は究極の個人情報／聴覚と声／呼吸法の検証／
声は脳から身体を変える／脳が声を作り、声が脳を作る〉など。

B 5月25日(土)
山崎広子

オーセンティック・ヴォイスと声の心理学

前半は声と心のお話。後半は質疑応答で理解を深めます。〈自分の声を嫌う人が多い理由／声は心をどう動かすか／本物の声＝オーセンティック・ヴォイスとは／人はその声のように心身が構築される〉など。

2

A 6月29日(土)
野田尚史

日本語のあいまい文

「大きなおもちゃを入れてある箱」は「大きなおもちゃ」という意味か「大きな箱」という意味かがあいまいです。このような「あいまい文」はどんな構造を持っていて、どのようなときに生じるのかを考えます。

B 7月27日(土)
野田尚史

日本語のわかりにくい話し方

日本語を母語としない日本語学習者が日本語を聞いたときに、理解できなかったり違う意味に誤解したりすることがあります。そのような事例をもとに、どのような話し方が聞き手にわかりにくいのかを考えます。

3

A 8月24日(土)
安田 登

朗読に活かす能の謡(1)

能の謡や「語り」の手法を学びながら、古典や近現代の作品に活かす方法を考えます。今回は、能の謡や発声を体験しながら『平家物語』など古典作品を読みます。講師による作品の上演もあります。

B 9月28日(土)
安田 登

朗読に活かす能の謡(2)

今回は、能の「語り」の手法と「間」を学びながら、近現代の作品への応用を考えます。なお、進み具合によっては内容が変わることがあります。ともに実習が中心になります。

4

10月26日(土)
島内景二

『源氏物語』を音読・朗読するには

そもそも音読されていたとする説もある『源氏物語』ですが、原文の朗読には、現代語訳を朗読するより何倍も高い「壁」があります。その「難所」を一緒に考え、乗り越える第一歩としましょう。

5

A 11月30日(土)
美細津由加里

第一回 事実と客観 報道ドキュメンタリーのまなざし

ウクライナ侵攻で、占領地の実態やロシアに連れ去られた子どもたちなど、紛争地の取材を続けてきました。メディア不信が広がる時代にどのようなまなざしでの作り方・伝え方が求められているのかを考えます。

B 12月21日(土)
美細津由加里

第二回 映像を立たせる言葉の力とは

映像の力が強い時、言葉で伝える必要はほとんどありません。しかしドキュメンタリーのコメントは数行の言葉で映像の本質を効果的に伝える工夫がされています。言葉に込められた演出の意図を読み解きます。

6

A 2025年
1月25日(土)
宮本隆治

第一回 呼吸で話す～着陸話法～

朗読する際、「呼吸」を意識したことはありますか？ 「呼吸で読むこと」は読む側にも聴く側にも重要な要素です。タップリと息を鼻から吸って飛行機が着陸するよう高い所から低い所に降りる話法を伝授します！

B 2025年
2月22日(土)
宮本隆治

第二回 声は人なり！～ハシカベ体操～

朗読するに当たり技術面で錬磨をする方は多いでしょう。が、声まではどうでしょう？ 人間の発声は3種に分けられます。理想的な発声方法と同時に誤嚥性肺炎を防ぐ喉の体操の「ハシカベ体操」をご指導します。

7

2025年
3月22日(土)
加賀美幸子まとめ
それぞれの「朗読論」と発表

Rodoku

【受講申込書】

フリガナ 氏名				年齢	歳
職業	役職などできれば具体的に				
連絡先	住所				
	電話		携帯		
	メールアドレス				

【朗読活動経験】

1.あり(具体的に)

2.なし

【本講座への思い】

【受講後の活動予定】



NPO日本朗読文化協会

Since 2001